

会派調査(研修)報告書

NO.

平成 31 年 1 月 30 日

胎内市議会議長

薄 田 智 様

(報告者) 会派名 政和会

代表者名 渡辺 俊

(文責) 森田幸衛

会派調査(研修)について、下記のとおり報告します。

調査・研修 日 時	自 平成 31年 1月 23日 至 平成 31年 1月 25日 2泊 3日 (3日間)	調査・研修 場 所	千葉県富津市役所 茨城県大洗町商工会
調 査 ・ 研 修 事 項	富津市「市民参加の事業仕分け」 大洗町商工会「ガルパン」から学ぶまちづくり		
調 査 ・ 研 修 出席者(参加者)	渡辺 俊 天木義人 小野徳重 森田幸衛 森本将司 坂上隆夫 (公明党) 渡辺栄六		
相手方(対応者)	富津市：平野議長 (総務部) 秋嶋課長 三田係長 (議会事務局) 大塚局長 平野副主査 大洗町：今村議長 (大洗まいわい市場) 常盤良彦 (商工会) 坂本事務局長		

調査の結果または概要

富津市は、平成26年度当初予算編成において財政調整基金がほぼ底をつき、26年8月に収支見込を公表し、今のままの財政運営を続けていくと、平成27年度から平成31年度の財源不足額が28億円となり、平成30年度には実質赤字比率が標準財政規模の2割を超え、財政再建団体になりかねない旨を市民に説明した。各地区での説明会は怒号が飛び交うほど市民の不満や怒りが爆発した。この財政状況を克服するため「富津市経営改革プラン」を策定し、市民参加型の事業仕分けを実施した。

大洗町は、茨城県の太平洋側のほぼ中心にあり、穏やかな気候に恵まれた観光・保養の地であり、白砂青松の景勝地で、海水浴場として人気がある。豊かな自然を始め「水族館」「マリントワー」などの観光施設とレトロな雰囲気が残る商店街が融合した観光地として知られている。年間約560万人もの観光客数を誇っていた大洗町だったが、東日本大震災による津波の実被害に加え、福島第一原発事故による風評被害などもあり、観光客数が300万人台まで落ち込み県内トップから陥落したが、わずか1年での首位奪還には「ガールズ&パンツァー」が大いに貢献した。

調査の所見・感想

富津市は、市民を含む第三者が参加する公開の場で議論することにより、市政に対する市民参画を推進し、透明性を向上させると共に、職員の意識改革の推進を図るため、事業仕分けを「構想日本」という国や地方公共団体の事業仕分け実施に関してノウハウと実績を有する政策シンクタンクに委託した。

仕分け対象は、事業費が100万円以上で市の裁量余地がある事業、不特定多数の者が利用する施設、市民の生活に直結している施設等を基準に26事業を選定。市民アンケートで参加の意向があった約2千人から無作為抽出で41名を「市民判定人」として選出。「構想日本」からコーディネーター1名、専門的な知識を持つ仕分け人4名と、市役所担当課の職員との事業に対する議論を市民判定人が見守る形で、過去の経緯や制度に捉われることなく、必要性、妥当性、実施主体のあり方について、第三者の視点での議論を「市民判定人」が、廃止・国県広域が相応しい・要改善・現行どおりの4区分で判定する事業仕分けを2ヵ年にわたり実施した。構想日本の委託料は年間約200万円だが、約3,000万円の事業費を削減した。ネット中継を含み仕分け作業を公開したことにより市民感情も収まり、同時に職員数を約1割削減したこともあり、1億5千万円まで減少した財政調整基金は、現在20億円まで回復した。「素晴らしい」の一言に尽きる。胎内市は、市長・副市長・財政課長が中心になって事業仕分けを実施しているが、透明性という点で、富津市のやり方も大いに参考になると感じた。

大洗町の「ガルパン」から学ぶまちおこしは、縁あって神奈川から移住してきた常盤さんが、既成概念に捉われないスーパーコーディネーターのような人で、危機感を持っていた商工会・行政・観光協会と力を合わせ、大洗町を舞台にした「ガールズ&パンツァー」というテレビ放映されたアニメをまちおこしのツールとして「大洗あんこう祭り」と「海楽フェスタ」において最大限活用しながら、いわゆる「よそ者・若者・ばか者」が新しいカルチャーをつくるという痛快なサクセスストーリーである。感心したのは、大洗町商工会はイベント開催にあたり、必要経費等は自主制作したガルパングッズの販売代金で賄い、町からの補助金はもらっていないという点である。見習うべきである。